

令和2年12月10日号 (第214回)

# 阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

今回の阿伎留通信は、「作業療法士の仕事紹介」をテーマに、リハビリテーション科の高瀬 泰礼よりお話しさせていただきます。

『作業療法士』と聞いて、仕事の内容が思い浮かぶ方は少ないのではないのでしょうか。テレビドラマで出てくることもなく、知名度はあまり高くない職業ですが、病気やけが、もしくは生まれながらに障害がある方など、年齢に関係なく日常の生活に支援が必要な人すべてに関わるリハビリテーションの専門家です。

作業療法士は基本的には3年ないし4年制の専門学校や大学で学び、国家試験に合格することで資格が得られます。当医療センターでは診療部リハビリテーション科に7人の作業療法士が常勤しており、医師の指示の下で主に脳卒中や手の骨折などの患者さんに対するリハビリテーションに関わっております。

次に、作業療法について説明したいと思います。日本作業療法士協会は以下のように「**作業療法の定義**」を定めており、これに基づいて作業療法士はリハビリテーションを行っています。



『作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる。作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す。』

(注釈)

- ・作業療法は「人は作業を通して健康や幸福になる」という基本理念と学術的根拠に基づいて行われる。
- ・作業療法の対象となる人々とは、身体、精神、発達、高齢期の障害や、環境への不適応により、日々の作業に困難が生じている、またはそれが予測される人や集団を指す。
- ・作業には、日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養など、人が営む生活行為と、それを行うのに必要な心身の活動が含まれる。

- ・作業には、人々ができるようになりたいこと、できる必要があること、できることが期待されていることなど、個別的な目的や価値が含まれる。
- ・作業に焦点を当てた実践には、心身機能の回復、維持、あるいは低下を予防する手段としての作業の利用と、その作業自体を練習し、できるようにしていくという目的としての作業の利用、およびこれらを達成するための環境への働きかけが含まれる。

非常に長い文章となっておりますので、私なりに説明させていただくと、  
 “その方がやりたいことや、やらなくてはならないことを”  
 “でも、上手くできていないことを”  
 “できるだけ安全に、円滑にできるようになってもらう”  
 “その手伝いをさせていただく仕事です。”

作業はその人にとって価値のある活動であれば良いので、患者さんによって内容は異なります。具体的には、

- ・1人でトイレに行けるようになりたい → トイレに行くための練習
  - ・着替えが上手くできない → 着替えのための練習
  - ・携帯電話の操作が上手くできない → 携帯電話操作のための練習
  - ・家に帰ったら、洗濯物を干したい → 洗濯物を干すための練習
  - ・退院したら、また趣味のグランドゴルフがしたい → グランドゴルフのための練習
- などです。

基本的には食事・整容（身だしなみを整える動作）・トイレ・着替え・入浴など身の回り動作が行えるようになることに重点が置かれますが、患者さんの価値観や興味、意志に合わせて様々なリハビリテーションを提案し、サポートしています。思い返せば、私は患者さんの価値観に寄り添えること、また、患者さんに合わせたリハビリテーション内容の自由度の高さに惹かれて作業療法士の道を選んだと思います。



これからもスタッフ一同、良質なリハビリテーションの提供に努め、地域医療に貢献していきます。

阿伎留通信については、バックナンバーを公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)